

第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム

シンポジウム『東日本大震災の経験と教訓を世界へ』 の開催報告

国土交通省 東北地方整備局 企画部 防災課 計画係長 まやま たかゆき
間山 隆之



はじめに

第3回国連防災世界会議が開催され、東北地方整備局も東日本大震災の経験と教訓、日頃の防災への取組など広く国内外に発信することを目的としてシンポジウムや展示を行いました。今回は、その開催内容について報告をします（写真—1）。



第3回国連防災世界会議

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議であり、第1回（1994年、於：横浜）、第2回（2005年、於：神戸）ともに、日本で開催されています。

第3回の国連防災世界会議は、2015年3月14日



写真—1 2月1日開催イベント
会議本番の成功を確信するかのような盛り上がりでした

～18日に仙台市を中心に開催されました。

会議は大きく分けて国連主催の「本体会議」と、公募により募集した様々な団体が主催する「パブリックフォーラム」に分かれて行われ、期間中は、国内外から多くの方が来仙されました。

※全てのシンポジウム・屋内外展示に参加・来場した方は、15万6千人を超えました（実行委員会3月24日暫定値）



写真—2 シンポジウム開催案内チラシ
道の駅や地下鉄の駅などで事前周知を行いました

3

シンポジウム『東日本大震災の
経験と教訓を世界へ』

本シンポジウムは、東北地方整備局主催のパブリックフォーラムとして、3月16日（月）14時45分よりTKPガーデンシティ仙台で開催しました。

この会議期間中は、様々な会場で多くのフォーラムが開催されていたため、本シンポジウムに足を運んで下さるか、開場まで多少不安でしたが、蓋を開けてみると300人規模の会場に350人を超える方が来場され、会場は立ち見が出るほどの盛況ぶりでした（写真—3）。

また、国外の方の聴講もあり、改めて本テーマにおける関心の高さを実感しました。

はじめに、主催者を代表して縄田正東北地方整備局長が「防災・減災で最も大切なのは、災害で経験したことから教訓を引出し、その教訓を共有し、後生に伝承すること。本シンポジウムを通じて、我々がさらに備えを身につけ、応用できる職員となるよう、そして世界各国の自然災害による被害の軽減に少しでも役立つことがあれば」と挨拶しました（写真—4）。

第1部では、福島原子力発電所での事故検証委員会の委員長を務められ、また「未曾有と想定外—東日本大震災に学ぶ」の著者でもある、東京大学名誉教授・株式会社畑村創造工学研究所代表の畑村洋太郎氏から「東日本大震災に学ぶ」というテーマで基調講演を頂き、



写真—3 シンポジウム会場：立ち見も出る大盛況



写真—4 縄田局長挨拶



写真—5 畑村洋太郎氏基調講演

釜石市 市長	野田 武則
(株)アニマトゥール弘報企画 代表取締役	道下 弘子
刈屋建設(株) 総括取締役 次長	上野 裕矢
(株)復建技術コンサルタント 事業企画本部 理事	熊谷 順子
国土交通省東北地方整備局 副局長	渥美 雅裕



写真—6 パネルディスカッション

- ・災害は必ず起きるという前提で「絶対安全はあり得ない」
- ・大事なことは、主体的・能動的に行動できる個人を作ること

等の提言を頂きました(写真—5)。

第2部は畑村氏をコーディネーターとして東日本大震災に様々な立場でかかわったパネリスト(パネリストについては、表—1をご覧ください)によるパネルディスカッションを行い、

- ・常に対応可能な資機材・人材の備え
- ・ハードとソフトの組み合わせによる防災力の向上
- ・生じたことや得られた教訓を記録に残し後世へ伝承

が必要との意見交換をし、まとめとして

- ・大規模災害時に想定外を想定することが重要という発信を行いました(写真—6)。

なお、本シンポジウムはインターネットサイト「USTREAM(ユーストリーム)」にて生配信し、来場できなかった方々への情報発信も行いました。

※配信は4月9日で終了しています。

4 展 示

(1) 屋内展示

屋内展示はAER5Fにて、3月14日～18日の会議期間中を通して行い、『MISSION「忘れない」「守りたい」災害パネル展』として、東日本大震災での活動などのパネル展示を行いました。

また、震災品の展示やGPS波浪計の模型デモンストレーションなどもあわせて行い、来場者からは積極的に質問が出ていました(写真—7～9)。

(2) 屋外展示

屋外展示は、3月14日と15日の2日間、仙台市役所前にて、災害対策車両(排水ポンプ車と照明車)の展示を行いました。

土日のみの開催でしたが、親子連れでの来場が目立ち、普段見慣れない車両について質問したり、記念撮影を行っていました(写真—10)。



写真—7 震災展示品



写真—8 外国の方からも質問

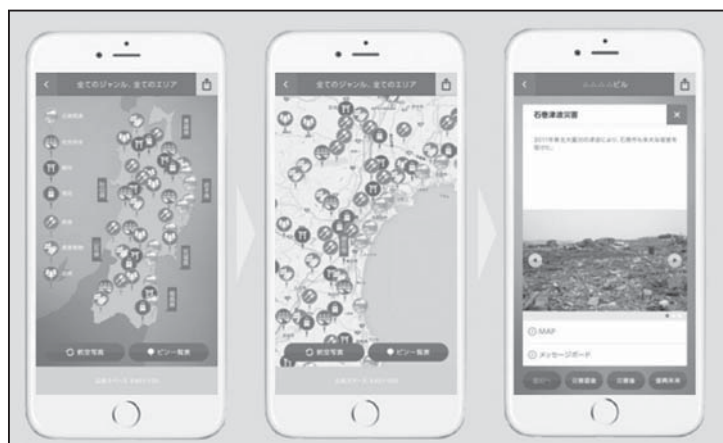


写真—9 GPS波浪計デモ



写真—10 災害対策車両の展示
(写真は排水ポンプ車)

ちなみに、周りは自衛隊・警察・水道などの車両展示も行っていたことから、さながら『特殊車両のお祭り』のようでした。



写真—11 「ガイド東北」画面イメージ



写真—12

「ガイド東北」はこちらのQRコードからダウンロードできます

5

スマートフォンアプリ
「ガイド東北」

東北を訪れた方々に、地域の情報を提供するスマートフォンアプリ「ガイド東北」を公開しました（写真—11, 12）。

「ガイド東北」は、東北に関係する主な機関が一体となって、東日本大震災の被災から復興までの実像を伝えるとともに、東北全体の賑わいを取り戻し、更なる活性化を図ることを目的としています。

6

さいごに

第3回国連防災世界会議では、ポスト2015防災

枠組として、今後の各国の防災の具体的な行動指針をまとめた「仙台防災枠組（Sendai Framework for Disaster Risk Reduction 2015–2030）」と今回の会議の成果をまとめた「仙台宣言（Sendai Declaration）」が採択され無事閉幕しました。

本シンポジウムの開催にあたっては、多方面の方々に周知などご協力を頂き、東北地方整備局として発信したかった内容が広く国内外の方々に伝わったと思います。

この場を借りて感謝申し上げるとともに、いつ・どこで起こるかわからない災害に対して、関係機関、また住民の方々が改めて「防災・減災」の意識を共有頂き、備えの一助となってくれたのではと感じています。